

後記

平成八年二月より本小田英郎教授退職記念号の企画を開始し、ここに十四篇の論文から成る第七十一巻第一号を同記念号として刊行できる運びとなった。塾内八名、塾外六名の執筆者は皆これまで塾法学部で小田先生と親しく接し、あるいは教えを受けた者たちである。先生が昨年三月を以て選定年により慶應義塾を退かれたことは、引き続き敬愛大学国際学部で御活躍であるとはいえ、我々としてはやはり名残惜しく感じられる。こうした節目に本論文集を編み、昭和三十七年四月法学部助手に就任されて以来三十五年にわたって本塾大学の研究教育に尽力されてこられた先生への学恩の意をこめ献呈させていただき、御批評いただきたく思う。

以上の過程で多くの方々が本号の企画、執筆、編集、発刊に時間と労力を割いてくださった。序文をお寄せくださった法学部長、それぞれの研究分野での力作を寄稿いただいた執筆者をはじめ、御協力いただいた方々にこの場を借りて厚くお礼を申し上げる次第である。

小田教授の学問的業績、学内外での公的活動については、序文において触れられている。ここでは私の専攻が中東の政治経済論でありながら、小田先生から学問的に学んだこ

とについて記すのをお許しいただきたいと思う。学部生の頃『演説館』という塾生の意見交換誌があり、その編集に一時期携わったことがある。そこに当時法学研究科の院生が「小田先生の『現代アフリカ論』から地域研究の方法を学んだ」と書いているのが目に留まった。三田に行き、私も『現代アフリカ論』を取った時、ちょうど先生の『現代アフリカの政治とイデオロギー』が出版され、この本を熟読した。「これが政治学の視点からアフリカを観る地域研究の方法なのか」と思うと同時に、その明解な文章に引き込まれた。

大学院では先生の特長研究を取った。そこには現代アフリカ論専攻の井上一明現助教授が出席しておられた。それ以来小田先生からは、折に触れ論文執筆の機会をいただいたり、共同研究に参加させていただいたりして御指導を賜った。先生は常にアフリカ全体を視野に入れ、また地域の問題を国際関係の中で、世界情勢と結び付けて考察するという点に心を砕かれていた。その間小田先生から私が学んだことは、「地域研究者は時には地域を越えるような広い視野で物を見る」ということであつたように思う。

今後とも、小田英郎先生がますますお元気で御活躍になり、後進の者を御指導下さるように心よりお願い申し上げます、後記の結びとしたい。

平成十年一月

法学部教授 富田 広士